

景観グループ



果樹グループ

◆水のネットワークを！

羽尻 嵩

人間は「生態系の多様性」があってこそ生きられる。多様な生態系を守る上でのキーワードは、①「緑のネットワーク」と②「水のネットワーク」ですが、②について具体例をあげます。

私の出身の豊岡市にコウノトリがいます。この鳥は人間と同じく食物連鎖の頂点にあり、人間の農作物に多少の被害を出しますが、人間に害を与えるイナゴやネズミ、モグラを食べてくれるので、人間と共に生きていましたが1971年に豊岡のコウノトリは絶滅してしまいました。

豊岡市では生態系の頂点にいるコウノトリの保全は地域の多様な生物相を保全することになるため、積極的に保全計画を推進することにしました。ロシアからコウノトリの雛6羽をもらい受け、ケージ内で何とか産卵に成功し(1989年)、野生コウノトリを増やすまでになりました。

野生コウノトリは日本各地に飛来もして200羽にまで増えています。絶滅した原因は、農薬散布とコウノトリの餌になる魚類の減少にありました。魚類の減少の大きな原因は川から田んぼへの「魚道のつながり」がなくなったことです。1970年代の田畝整備事業は農業の合理化を進めたが、田んぼにつながる水路に高い段差ができて魚が川の奥地まで遡上していくことができなくなりました。魚類の生態系が破壊されました。コウノトリを蘇らせるため、豊岡市はまず川(円山川)から魚が田んぼまで遡上できるように魚道を造りました。魚道の遡上道ができたことにより水のネットワークが広がり、田んぼの餌場が増えて、コウノトリの繁殖が増えていきました。無農薬で湿地も増やし、冬でも田んぼに水を入れ(冬期湛水)、「コウノトリを育む農法」を始めました。今、米はブランド米として高値で販売されています。観光客も増えました。子供も大人も心が優しくなりました。

◆果樹グループは夢がいっぱい

豊田 治代

シニア自然大学校の実習生として昨年の初夏に初めてこの会を見学させていただいた時、会員の皆さんがとっても生き生きとされていて、ここは、まさにシニアの楽園だなあって一目惚れしました。自宅のすぐ近くにこんな素晴らしい場所があるなんて、もっと早く知りたかった！

それからちょうど一年、会員にさせていただき、この度果樹グループに入れていただきました。

私には、柳生近くのリ山に、先祖からバトンを渡されたかやぶきの家があります。家の周りには、柿、栗、枇杷、柚子、梅、キーウィ等々、親や祖父母たちが丹精を込めて植え育てたに違いない果樹があります。知識も経験もない私には、お世話するすべもなく、申し訳ない状態になっています。果樹グループでいろいろ教えていただきたいと考えたのです。

入ってみたら、驚くことばかり！皆さんとっても物知り！お元気！夢がいっぱい！何も知らなく、何の役にも立てず、すぐに疲れてしまう、口だけは達者な軟弱者の私に、一つ一つ教えていただいています。刈払い機の使い方などは繰り返し手ほどきしていただきました。

十数年前にならやまプロジェクトを立ち上げた先輩方、お言葉の一つ一つが勉強になります。水曜日の夜に、イソイソと準備している私に孫娘が遠足の前の日みたいやなあって言います。

事情があって一人での生き方を模索していた私に、素晴らしい仲間に出会うことができ、ワクワクしています。教わったことを自分の物として、皆さまのお役に立てるように成長したいと考えています。

